

4-(1)-⑰ 産学官連携

本学では、地域社会や産業界との全学的な連携活動を通じて、多様な教育機会の提供を図るとともに、社会に対して際立った影響を与え続ける研究・社会貢献活動を展開している。

■共創デザイン室

共創デザイン室を窓口とした産学連携事業においては、イベントの企画・運営に関する案件や学生によるフィールドワークの展開が必要な受託案件については実施が困難であるため減少したものの、全体としては48件(前年度比72%)の受託研究契約を締結した。また、教育的波及効果を高めるために、学科横断型の協働プロジェクトも積極的に展開した。

■協定締結企業との連携

株式会社 IHI との連携事業では、コロナ禍の影響により、学生参加型のデザイン思考による新しいサービスや製品提案のワークショップは実施できなかったが、同社からの受託事業として、広報誌『IHI 技法』の表紙デザイン制作、ホームページデザイン制作及び開発品イメージ動画デザイン制作などに学生が参画した。また、同社と本学が共同で設置した I-ToLab. において発案された、「高等学校における AI 部」構想が具現化し、自治体や経済同友会の支援のもと県内 11 の高等学校で創部された。

■文化財保存修復研究センター

文化財保存修復研究センターでは地域の文化財の保存修復活動を推進しており、今年度は26件(前年度比124%)の契約を締結した。また、20年計画で実施されている鶴岡市善寶寺の五百羅漢プロジェクトは6年目となり、鶴岡市の致道博物館創立70周年記念展にて修復の成果が展示されるなど、広く地域に情報発信がなされた。プロジェクトの特設ホームページを立ち上げ、修復の様子を広く動画で配信した。

また、公開講座等の外部発信イベントは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い大半が中止となったが、3月には山形県立博物館と共催でオンライン公開講座を開催することができ、対面での公開講座1回の平均参加者を大きく上回る122名の参加を得た。

■高大連携事業の推進

本学のデザイン思考のノウハウを活用した探究型学習研究大会は、オンライン形式に変更しての開催となった。それにより参加可能な地域が広がり遠方からの参加者も増加した。高校教諭を中心に200名を超える参加があり、そのうち約150名は新規参加者であった。主要5教科担当の高等学校教諭が65%を占めるなど、本学に対する美術教諭以外からのニーズも高まっている。また、山形東高、山形西高を中心にカリキュラム開発や教員研修、出張授業等による連携を継続展開した。文部科学省が進める教育改革と連動し、「デザイン思考を活用した探究型学習」の拠点化を推進した。